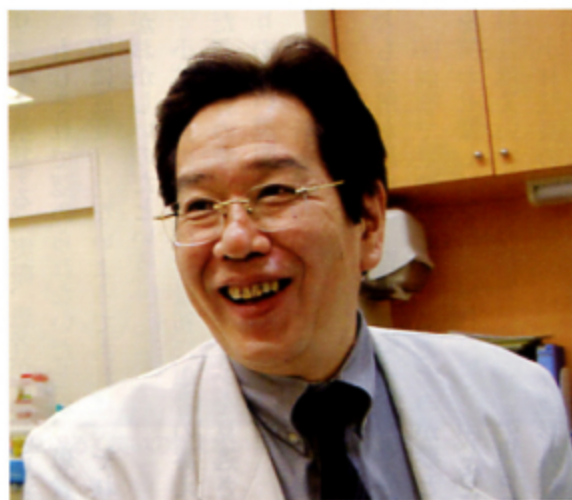


医療法人社団 眞緑会
Koba レディースクリニック

Doctor
who can
rely on

一組でも多くの不妊のカップルに赤ちゃんを
少子化時代に挑む不妊治療の第一人者



「一組でも多くの子宝に恵まれない夫婦に赤ちゃんを」と語る小林院長。

医療法人社団 眞緑会

Koba レディースクリニック

院長 小林 眞一郎

近年、女性の社会的進出は目覚ましいものがある。女性経営者はすでに珍しくなく、女性閣僚、知事、市長などの首長はもとより、これまでも世界中で女性宰相（首相）は数多く誕生している。

これと並行するように、一方で晩婚化が進行し、出産機会の減少、出産年齢の上昇を招き、少子化に拍車をかけているのも現実だ。こうした時代背景の中で、「一組でも多くの、子宝に恵まれない夫婦に赤ちゃんを」と、最先端の不妊治療で地域医療に貢献しているのが、兵庫県姫路市にあるKobaレディースクリニックの小林眞一郎院長である。

「出産というのは年齢を重ねる毎にリスクが高くなるものです。安全なお産の為にも出来るだけ20代

後半から30代前半の適齢期といわれる時期に子供を産んで欲しいですね」

こう切り出す小林院長は、医学部を卒業後、数多くの病院で婦人科医として経験を積み、とくに数多くの子宮がんに悩む患者を診療してきた。

同時に過去20数年にわたり、一貫して不妊治療に取り組み、これまでにおよそ七千五百人もの不妊患者の診療に当たってきた、不妊治療の第一人者なのだ。

20数年来、一貫して不妊治療に邁進 七千五百人にのぼる不妊患者を診る

「私が医者になった昭和58年に、日本で初めて体外受精が行われました。運命的なものを感じた」小林院長は、日本で初めて体外受精を行ったグループの一つである兵庫医科大学の磯島教授の誘いを受け、当時未踏の領域だった不妊治療の道に踏み出すことになった。

「結婚して5年、10年と子供に恵まれず悩み続けてきた夫婦が、不妊治療を受けて妊娠する。その時の患者さんの喜び、感動はとても口では言い表せないものです」不妊治療の素晴らしさを語る小林院長だが、小林院長の医師としての歩みは、そのまま不妊治療の進歩の歴史でもある。

「昔に比べて不妊治療の技術は長足の進歩を遂げ、妊娠成功率は劇的に上昇しました」

わが国で体外受精が始まって26年が経過するが、当時妊娠率は10%程度だった。現在、体外受精による妊娠率はおよそ45%にまで上昇した。小林院長を始め、不妊治療に携わってきた専門医の研鑽によって医療技術は長足の進展を見せ、日本の不妊医療は世界のトップレベルに位置づけられているという。

子供が欲しいという切実な悩みを訴える夫婦は多い。不妊症の原因は何だろうか。小林院長は、「色々な原因が考えられますが、生活習慣病ではないことを分かってください。糖尿病や高脂血症の様に、食生活や生活習慣を改善したからといって病気が改善する、ひいては妊娠に至るというものではありません



大病院に負けない最新の設備と技術を誇る。

出産・子育てに優しい職場環境を 働く女性の育児にもっと国の支援を

「私のクリニックに来られる患者さんの平均年齢は大体33歳です。残念ですがその患者さんの平均年齢が年々上がってきています。」女性に安全なお産を望む小林院長は昨今の晩婚化の現状を嘆くことしきりだ。

仕事を理由に、結婚しても出産を後回しにする女性が多い。役所や民間企業が、働く女性に対して出産、子育てがしやすい職場環境やサポート体制を備えるべきだと強調する。「子育てにかかる養育費の負担などから出産を躊躇する人もいます。突き詰めると、出産に踏み切れないでいる直接的な大きな原因のひとつに、生活費の中で占める住宅費や教育費の高さが指摘されます」

家計を大きく圧迫しているこの二つの出費が夫婦間の子供を作ろうという気持ちを萎えさせていると小林院長はいうのだ。

「この二点に、国が手厚い保護をすれば少子化問題の根本的な解決になると思います。不妊治療に対する現行の助成金給付は、焼け石に水の感があります」と訴える。折角女性が社会進出を果たして多方面で活躍しても、出産、育児についての職場の理解や、受け入れ体制、さらには政府の必要な助成措置が不備では、安心して出産に踏み切れない。結果的に女性に高齢出産というリスクを強いることになるというのだ。

「今、私にできることは、不妊治療を通して少しでも少子化対策に貢献していくことです」と嘯み締めるように語る小林

ん」と言い切る。男性側であれば、種々の原因による良好な運動精子の不足（乏精子症、精子無力症）や、インポテンツ等による性交障害が挙げられる。女性側には、排卵障害や、黄体機能不全等のホルモ的な問題（内分泌因子）、子宮筋腫や子宮内膜ポリープ等が原因となり得る着床障害（子宮因子）、卵管閉塞や卵管周囲癒着による卵子の捕獲障害（卵管因子）、精子不動化抗体や精子凝集抗体による免疫性不妊症、さらには子宮内膜症など種々の原因が不妊症を引き起こしている。

出産適齢期は35歳がひとつの節目 歳とともに高まる出産リスク

小林院長は、不妊症かなと思ひ悩む事があつたらTVやネットに頼らず、専門の本を読んで欲しいという。一部の情報だけを取り上げるTVやネットではなく、順序だててきちっと基礎から解説してくれる専門図書（不妊専門雑誌を含む）から、正しい知識を得るようにして欲しいというのだ。

不妊で悩んでクリニックを訪れる患者さんの9割以上が女性だ。そして不妊治療を受けるかどうかという決断は、年齢との闘いだと小林院長はいう。「例えば20代、30代の患者さんが同じ原因による不妊症の場合、20代の患者さんの方が妊娠する確率は格段に高い。これは宿命的なものです。出産についても同様で、高齢になれば流産してしまう確率は高くなります」医学がいくら進歩しても、妊娠や出産を完璧にコントロールする事は不可能だというのである。

「時代によって女性のライフスタイルが変化するからといって、女性の出産適齢期が変化するという事はもちろんありません。いつの時代も出産適齢期は35歳が一つの境目なんです。それを超えると妊娠率が下がり、妊娠出来たとしても流産や出産に関するリスクが若い人に比べ大きくなります」

小林院長がいうように、30代後半半に入ると妊娠率の低下に加え、出産時の負担が母子共に大きくなるため、出来るだけ若い内に出産を終えることが望ましいというのだ。

医療法人社団 眞緑会
Koba レディースクリニック

を減らしながら高い妊娠率を目指す。最近では極力、単一胚移植を行っている。

さらに、一回の採卵で妊娠できる確率を高め、妊娠時期をコントロール出来る受精卵の凍結保存があり、Koba レディースクリニックでは、あらゆる段階での受精卵の冷凍保存を行うことができる。

Koba レディースクリニック内には、診察室、カウンセリングルームのほか、手術室や培養室、レントゲン室、キッズルームも完備。大病院に匹敵する最新の医療技術と設備を備えている。

「不妊治療は一朝一夕に出来るものではありません。最新の技術と知識。最高の設備と管理。この四つが全て揃わないと、患者さんに確かな不妊治療を提供することはできません」平成15年の開院以来、小林院長は1800名を超える女性に赤ちゃんを授けてきた。「専門医として体外受精を施し無事に妊娠、出産してくれた時は医者冥利に尽きますね。患者さんから感謝の手紙をいただく、この道に進んで本当に良かったと思います」と笑顔を浮かべる。

「一組でも多くの子供に恵まれない夫婦に、赤ちゃんが授かるように尽くしていきたい」不妊治療の第一人者、小林院長は新たな闘志をみなぎらせる。



小林院長は、年齢を最優先させた不妊治療を勧める。

院長である。「結婚して半年あるいは一年で不妊相談に来られる方もいます。結婚してあまり年数が経っていないくても、年齢が30代後半で、出産適齢期を超えている患者さんであれば、すぐにでも不妊治療を始めた方がいい」結婚して2年以上子供が出来ない夫婦が一般的には不妊といわれているが、小林院長は年齢を最優先させた治療が必要だというのである。

大病院に匹敵する最新の技術と設備 開院以来千八百人に赤ちゃんが授かる

小林院長のクリニックでは、まずカウンセリングルームと診察室で不妊治療について説明を行なう。患者に納得してもらった上で入念に検査を行い、治療に入る。不妊治療にはいくつかの手法がある。まず体外受精。これは、卵管閉塞、抗精子抗体などの免疫性不妊、男性不妊症、難治性の子宮内膜症などが適応対象となる。成熟した卵子を採取し、培養液の中で精子と受精させ、ある程度育った胚の段階で再び子宮に返す。

また、高度な乏精子症や精子無力症。あるいは体外受精で受精しなかった場合に適応対象となるのが顕微授精だ。少ない精子の中、1つの精子を選択し、卵子の細胞質内に注入し、受精させる。体外受精や顕微授精で、3個の受精卵を移植すると、双子や三つ子ができることがある。できるだけ多胎妊娠を減らすため、胚盤胞の段階まで受精卵を培養し、2個以内の移植とする方法がある。胚盤胞の段階まで受精卵を培養し、多胎

小林 眞一郎 (こばやし・しんいちろう)

昭和32年5月28日生まれ。徳島大学医学部卒業。兵庫医科大学産婦人科学教室入局。関西労災病院産婦人科、兵庫医科大学病院産婦人科、総合病院南大阪病院産婦人科に勤務。生長会府中病院産婦人科副部長、同不妊センター部長を歴任。平成15年Koba レディースクリニック開院。院長。医学博士。日本生殖医学会認定生殖医療指導医。

医療法人社団 眞緑会 Koba レディースクリニック

- 所在地 〒670-0935 兵庫県姫路市北条口2丁目18 宮本ビル
TEL. 079 (223) 4924
- 診療内容 ・不妊治療…一般不妊症の検査および治療、体外受精、顕微授精、受精卵凍結保存、精子凍結保存、胚盤胞培養、不育症治療
・不妊カウンセリング…不妊治療に関する相談
・一般婦人科…子宮がん検診、子宮筋腫・子宮内膜症治療、生理不順および生理の調整、避妊相談、更年期障害等に対するホルモン療法など。
- 診療時間 《午前》 9:00 - 12:00 月・火・水・木・金・土曜日
《午後》 16:00 - 18:30 月・火・木・金曜日
《休診日》 日・祝日 水・土曜は午後から休診